

# 招へい者のプロフィール

## ◆ワン・シュメイ(王 書梅)◆ 博士(公衆衛生)

- 復旦大学公衆衛生学部(中国 上海市) 教授
- 国際セーフコミュニティネットワーク 理事
- セーフコミュニティ公認認証審査員



上海医科大学卒業し、公衆衛生において修士号を取得。上海体育研究所(学院)スポーツ医学部や上海医科大学での経験を経て、現在は、復旦大学公衆衛生学部において教授を務める。

2001年に、オランダにて「ヘルシーシティ」を研究した際にセーフコミュニティに関心をもって以来、セーフコミュニティに焦点を置いた研究及び教育を行っている。

国内においては、中国教育省の学校保健及び食の安全専門委員会のメンバーとして研究を進める。また、上海エリアの自治体等へセーフコミュニティ活動の支援及びコーディネーションを行ってきた。現在は、ユニセフや中国 CDC が進めるプロジェクトにも携わっている。

国際的には、日本をはじめ韓国、タイ、ベトナムなどに 100 近い自治体においてセーフコミュニティ及びセーフスクールの認証審査の経験を持つ。

## ◆マイケル ウィルソン(Michael WILSON) ◆

(博士(傷害疫学)、公衆衛生学修士)

- フィンランド トゥールー大学 医学部 傷害疫学 准教授
- ドイツ 国際保健ハイデルベルグ研究所 傷害疫学ユニット長
- カメルーン ICT 大学 公衆衛生 准教授
- セーフコミュニティ公認認証審査員



アメリカやスウェーデンの大学で公衆衛生の教育を受けたのち、南米(コロンビア)やアフリカ(タンザニア)、カナダにおいて研究者としての実績を重ねる。

人類学、公衆衛生、ICT、及び傷害疫学を包括する多様なバックグラウンドを活かし、地域を基盤としたハイリスク者の傷害及び暴力の予防に力をいれており、特に、家族要因及び貧困などがどのようにケガの発生に影響を与えるかについて関心を寄せている。

その一方で、実践者としても活発に活動を展開しており、タンザニアにおいて、外傷予防及びコミュニティ安全向上センターのディレクター、PeerCorps Centre for Injury Prevention and Community Safety (CIPCS) の共同設立者、タンザニア デジタルライブラリー イニシアチブの設立者及び技術的リーダーとして、地域の安全の向上に取り組んでいる。

また、日本においては、4自治体での事前指導や現地審査をはじめ、ISS についても積極的に指導・支援を行ってきた。

## ◆白石陽子 ◆ 博士(政策科学)

- 一般社団法人 日本セーフコミュニティ推進機構 代表理事
- 国際セーフコミュニティネットワーク 理事
- アジア地域セーフコミュニティ支援センター連合 事務局長
- 立命館大学衣笠総合研究機構 研究員
- セーフコミュニティ・セーフスクール公認認証審査員



カナダのカレッジにおいてパブリックリレーションズ(広報広聴)を学ぶ。帰国後、医療福祉系のコンサルタント会社で企画開発にかかわるなかで行政の広報広聴に関心をもち、立命館大学大学院政策科学研究科(前期課程)に進み、地方行政の広報政策を研究し修士号を取得。その後、研究を続けるなかで、SC 発祥の地であるスウェーデンのカロリンスカ研究所(医科大学)に派遣されたことがきっかけで SC の研究を始める。

帰国後は、地方自治体が SC に取り組む意義と限界について研究を進め、博士号を取得する。その後、立命館大学大学院政策科学研究科と京都大学大学院医学研究科安寧の都市ユニットで研究を進める。

2011 年に、これまでの SC 活動に関する研究および支援の実績を認められ、SC 支援センターとして認証され「一般社団法人 セーフコミュニティ推進機構」を立ち上げる。

これまで、国内 17 自治体の SC 活動と 30 の保育所・小学校・中学校を支援するとともに SC・ISS の研究を続けている。また、海外でも 30 以上の自治体、10 以上の学校の認証審査を担当している。